

ボーリング柱状図

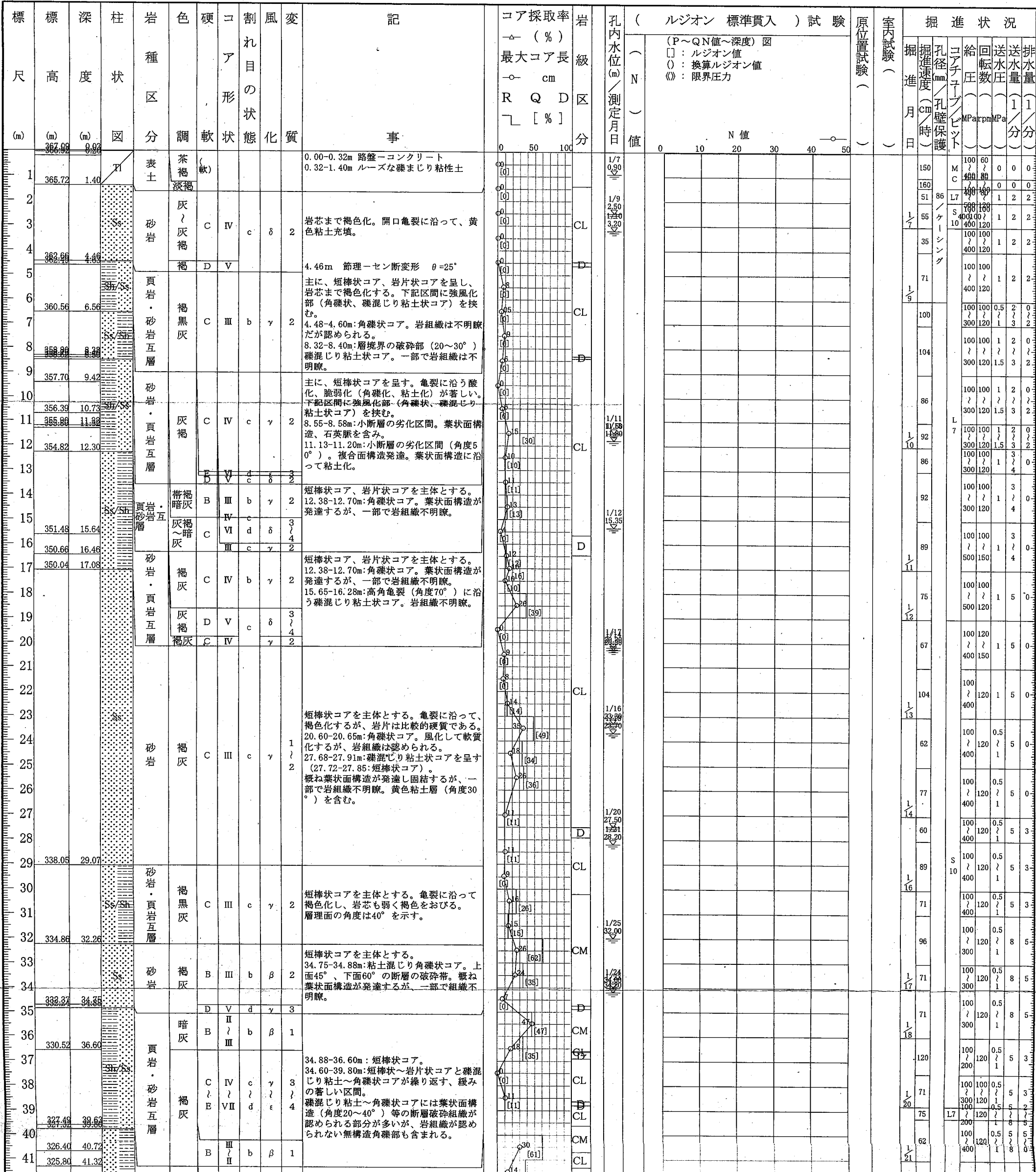
調査名 災関2-3-委5 災害関連緊急地すべり対策事業

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	D-1		調査位置	奈良県吉野郡十津川村宇宮原			北緯	34° 7' 12.4"	
発注機関	五條土木事務所			調査期間	平成 24年 1月 31日 ~ 24年 5月 31日			東経	135° 46' 14.5"
調査業者名	日本工営株式会社 大阪支店 電話(06-7177-9504)		主任技師			現代場人	コ ア 鑑 定 者		ボーリング責任者
孔口標高	367.12m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0°	使用機種	試錐機 YBM05DA-2
総掘進長	70.00m	度	0°	向	0°	エンジン	NFAD8	ポンプ	MS413



38			砂岩互層	褐灰	C E	IV VII	c d	γ ε	3 4	2.60-39.80: 短棒状・岩片状コアと礫混じり粘土〜角礫状コアが繰り返す、緩みの著しい区間。 礫混じり粘土〜角礫状コアには葉状面構造(角度20〜40°)等の断層破碎組織が認められる部分が多いが、岩組織が認められない無構造角礫部も含まれる。
39	327.49	39.63								
40	326.40	40.72			B	III II	b	β	1	
41	325.80	41.32								
42			砂岩・頁岩互層	褐灰	B	III II	b	β	1	39.0-41.32m: 短棒状コアおよび角礫〜礫混じり粘土状コアから成る緩みの著しい区間。 41.20-41.32m: 礫混じり粘土状コア。下面角度は30〜40°を示す。基質粘土は粘性が高く、岩組織なし。礫(径1〜5mm)は丸みをおびる。 41.32-43.12m: 短棒状コア。亀裂に沿って褐色化。 43.12-46.45m: 棒状コア〜短棒状コア。原岩色を呈し、亀裂に沿う褐色化はほとんど認められない。
43										
44										
45										
46	320.67	46.45								
47				灰	B	III II	b	β		
48	318.97	48.15	頁岩・砂岩互層	黒灰	B	II III	b	α	1	堅硬な短棒状〜棒状コア。
49										
50										
51										
52										
53										
54										
55										
56										
57										
58										
59			チャート	乳白〜白灰	A	III II	a b	α	1	チャートを主体とし、石灰岩薄層を挟む。上位の頁岩砂岩互層との境界はうねるが、密着する。 堅硬な棒状コア〜短棒状コアを主体とするが、下記区間では、亀裂に沿って劣化(褐色化、岩片化)する。 53.13-53.31m: 角礫状コア(径1〜5cm)。 61.30-61.86m: 高角亀裂(下面角度70°)に沿う岩片状〜角礫状コア。
60										
61										
62										
63										
64										
65										
66										
67										
68										
69	297.12	70.00								